



# ふるさといまり防災通信

伊万里市では、風水害、地震・津波災害、原子力災害などによる被害を最小限にするため、これまでの経験を踏まえ、常日頃から防災対策を進めていますが、災害はいつどこで発生するかわかりません。被害を最小限に抑えるためには、市民の皆様が防災意識を高めていただき、事前に対策を考えていただくことが大切です。

この防災通信を身近なところに備えていただき、家庭や地域の防災対策にご活用ください。

## 避難所における感染症対策について

世界的に新型コロナウイルスの感染が広がる中、日本では第2波のまっただ中にあるとの見解が示されるなど、現在、日本国内では感染者が再び増加している状況にあります。

この新型コロナウイルス感染症は、感染しても自覚症状が出ない場合もあることから、避難所に多くの方が避難してきた際に、感染拡大の危険性が高まることとなります。

このため、感染症が拡大している状況での避難のあり方を知っておくことは、感染拡大防止につながることから、避難する際にはどこに避難するか、また避難した際の注意点などを家族で話し合うなど事前に確認しましょう。

### 1. 避難の選択肢を増やす

#### ○ためらわず避難を

新型コロナウイルス感染症の感染拡大が続いていても、土砂災害や川の氾濫などの危険が差し迫っている場合は、ためらわずに、安全な場所や指定避難所に避難をして下さい。

#### ○分散避難

避難所が過密状態になると、感染症の感染リスクが高まる場合もあります。

可能な場合には、安全な地域に住んでいる親戚や友人の家など、指定避難所以外の場所へ避難することを事前に検討しておきましょう。

#### ○在宅避難

住んでいる地域の危険箇所を市のハザードマップなどで事前に確認して、自宅での安全が確保できる人は、感染を避けるため、指定避難所を利用せず、在宅避難を検討しましょう。

#### ○車中泊

土砂災害や浸水の危険性が無い安全な場所で、一時的に車の中で過ごす車中泊も考えられます。

その場合は、定期的な運動や換気を行うなどに心がけましょう。

## 2. 避難所で注意すること

### ○体調のチェック

避難所に入る場合は、体温計で検温するなど、体調を確認して、不安があるときは指定避難所の運営者に申し出て下さい。

※体温計やマスクは各家庭で避難所に持参できるように備えておきましょう。

### ○手洗い、咳エチケットなどの徹底

指定避難所へ避難してきたときは、断水などの影響がなければ頻繁に手を洗い、マスクを着用するなどの咳エチケットを心がけましょう。

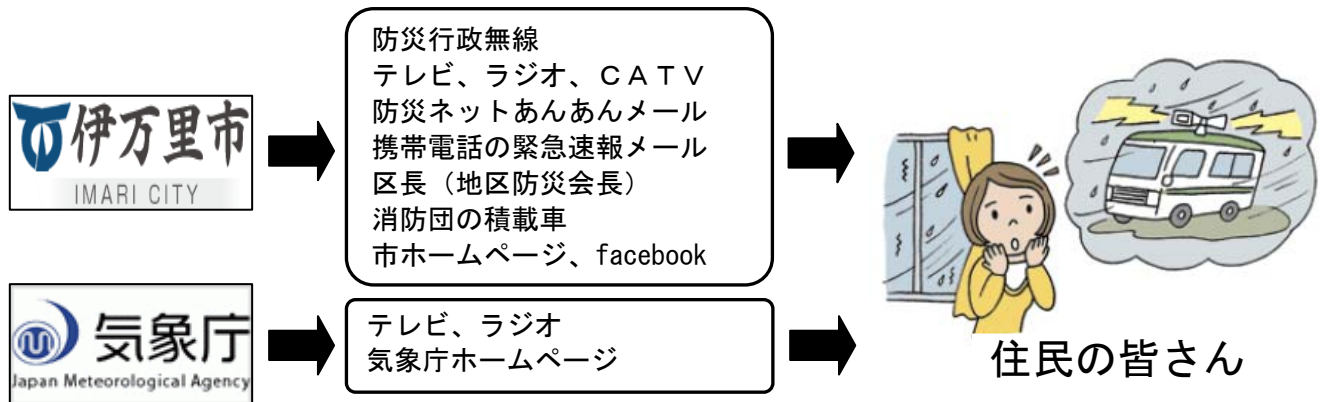
特に、多くの人々が接触するドアノブなどに触れたときは、手洗いや消毒をするなどして、感染症対策を徹底しましょう。

### ○十分な換気とスペースの確保

避難所では、避難者同士の間隔をできるだけ2メートル（最低でも1メートル）空けて、こまめに換気を行うよう心がけましょう。

## 災害情報の入手先を確認しましょう

大雨や台風のと きなどに市から発令される避難勧告などの情報や、気象庁から発表される気象警報や土砂災害警戒情報が、どのように届けられるのかを知っておくことは大変重要です。



【気象警報、土砂災害警戒情報など】

### 「防災ネットあんあん」に登録しましょう

佐賀県では、携帯電話などのメール機能を使って各種防災情報を配信する「防災ネットあんあん」を運用しています。災害時にいち早く情報を入手できるので、ぜひご利用ください。

#### ○配信情報の種類

防災行政無線の放送文、気象注意報・警報、地震、台風情報などの防災情報、火災情報など

※防災行政無線の放送文を受信するには市町情報で伊万里市を選択してください。

#### ○利用登録の方法

利用者の携帯電話などに登録サイトアドレス (<http://esam.jp>) を直接入力するか、右図のQRコードを読み取り、ガイダンスに従って登録します。

「防災ネット  
あんあん」  
(QRコード)



# 防災マップ（ハザードマップ）を活用して、 地域の災害リスクを確認しましょう！

災害から命を守る最も確実な方法は、災害にあわないようにする、すなわち「早めの避難」です。災害が迫ったとき、各家庭の家族構成や自宅周辺の状況は一人ひとり違います。それぞれが自ら状況を判断し、適切な行動をとらなければなりません。

このためにも普段から、防災マップ（ハザードマップ）を活用して、自宅や勤務先、通勤・通学路など自分達が生活する地域の災害リスクを確認しておくことが重要となります。

また、実際に災害が発生したときのことを想定して、避難場所や連絡方法などを家族で話し合い、共有しておくことも重要です。

## 1. 防災マップ（ハザードマップ）とは？

ハザードマップとは、自然災害が発生した場合の被害を予測して、被災想定地域や被害の範囲、避難場所などを地図上に表示したものです。



## 2. 防災マップ（ハザードマップ）の種類

### ①土砂災害ハザードマップ

急傾斜地崩壊（がけ崩れ）や土石流、地すべり発生の恐れがある区域を表示しています。

### ②洪水ハザードマップ

河川が氾濫した場合の浸水範囲及び、浸水深を表示しています。

#### 【洪水浸水想定区域の策定】

平成27年の水防法改正に伴い、国及び県において、従来の計画規模の降雨から想定しうる最大規模の降雨による浸水想定区域に見直しが行われました。

これを受け、伊万里市では令和元年度に新たに洪水ハザードマップを作成しています。

伊万里市で対象となる河川は、国直轄河川である「松浦川」「徳須恵川」と、県河川である「伊万里川」「新田川」「有田川」の5河川となります。

※実際の豪雨時には、このような規模が大きい河川の前に、身近な中小河川や農業用水路などが氾濫する恐れがあるため、示されている洪水浸水想定区域以外の場所でも注意する必要があります。

### ③津波ハザードマップ

津波が発生したときの浸水範囲及び、浸水深を表示しています。

## 3. 防災マップ（ハザードマップ）はどこで確認できる？

冊子とWeb版があり、建設農林水産部 道路河川課及び、市ホームページで確認できます。

（市HP：[https://www.city.imari.saga.jp/hazardmap\\_2/index.html](https://www.city.imari.saga.jp/hazardmap_2/index.html)）

# 5段階の「警戒レベル」を使って

## 避難情報をお伝えします

災害の危険が迫り、避難が必要になった場合、市は避難情報（避難準備・高齢者等避難開始、避難勧告、避難指示（緊急）、災害発生情報）を発令します。避難情報が発令されたら、すみやかに避難行動を取れるようにしておきましょう。

### ①早期注意情報（警戒レベル1） 気象庁が発表します。

最新の気象情報等に留意し、災害への心構えを高める段階です。

【例】大雨に関して、明日までの期間に警報の可能性が高いまたは中が予想されている場合

### ②大雨注意報・洪水注意報等（警戒レベル2） 気象庁が発表します。

ハザードマップ等により災害が想定されている区域や避難先、避難経路を確認していただく段階です。

### ③避難準備・高齢者等避難開始（警戒レベル3） 伊万里市が発令します。

要配慮者等で、特に避難行動に時間を要する者が避難行動を開始しなければならない段階であり、人的被害の発生する危険性が高まった状況です。

【例】・河川水位が避難判断水位に到達

・土砂災害警戒情報の発表

○気象情報に注意し、家族との連絡、非常持出品の用意など避難の準備を始めてください。

○避難に時間がかかる高齢者などの要配慮者やその支援者は避難を始めてください。



### ④避難勧告・避難指示（緊急）（警戒レベル4） 伊万里市が発令します。

通常の避難行動ができる者が、避難行動を開始しなければならない段階であり、人的被害の発生する危険性が明らかに高まった状況です。

※避難指示（緊急）は緊急的又は重ねて避難を促す場合に発令します。

【例】・河川水位が氾濫危険水位に到達

・記録的短時間大雨情報の発表

○災害のおそれのある地域にお住まいの方は、すみやかに避難所などの安全な場所へ避難してください。

○まだ避難していない方は、直ちに避難をしてください。

○屋外が危険な場合は、崖の反対側や自宅の2階など高いところに避難してください。



### ⑤災害発生情報（警戒レベル5） 伊万里市が発令します。

既に災害が発生している状況です。

命を守るための最善の行動をとってください。

【例】・堤防が決壊した

・大規模な土砂災害が発生した



ふるさといまり防災通信 Vol. 6（令和2年8月発行）（イラスト出典：広島県 HP、消防庁 HP）

発行：伊万里市防災危機管理課 電話 23-2130 FAX 23-8684

URL：http://www.city.imari.saga.jp/

※ふるさといまり防災通信は、市役所、各町コミュニティセンター、市民図書館、市民センターで配布しているほか、市ホームページからもダウンロードできます。